

「17歳の死 無駄にしない」

エタノール注入事故

京都大病院に難病で入院中の藤井沙織さん(当時十七歳)が人工呼吸器の加温加湿器に誤って消毒用エタノールを注入され、昨年三月に死亡した事故で、闘病生活を支えた看護ボランティアらが「さおちゃんの死と真実を知ろう会」を六日まで結成した。両親を支援するともに、医療ミスの再発防止を訴えて、広く会員を募っている。

メンバーは両親の友人や学生、看護婦、主婦ら約二十人。死の直前まで沙織さ

京都 再発防止訴え支援会

んのそばに付き添った人証人として、会報などで事件を広く伝え、両親に十分な説明をしていない病院側に真相の解明を求める。

事件は府警が今年一月、看護婦(24)ら七人を業務上過失致死容疑、死因をミスと無関係とする虚偽の死亡診断書を作成したとして医師(47)を虚偽有印公文書作成容疑で書類送検した。

同会の世話人代表の大坂紀子さん(46)は「あいまいな形で事件を風化させたくない」と話している。同会事務局(075・752・4758)。

京大病院人工呼吸器エタノール事件
再発防止支援集会
2001年3月7日 読売新聞(大阪)